

八戸工業大学 広報誌

2026
Summer

未来への翼



表紙

オープンキャンパスを開催しました！

7月5日（日）、8月1日（土）および8月30日（日）、本学キャンパスにてオープンキャンパスを開催いたしました。当日は多くの高校生や保護者の皆さまにご来場いただき、学科体験プログラムやキャンパスツアー等を通して本学の学びやキャンパスの雰囲気をリアルに体感していただきました。ご来場いただいた皆さま、誠にありがとうございました！

H.I.T.活動報告

学長通信



2027年度新体制に向けて

本学のTVCMが完成しました

2027年4月の「3学部体制への移行」およびオープンキャンパスの告知を目的とした、本学のテレビCMが完成いたしました。本CMは2026年6月10日（水）から8月31日まで放映されました。学生たちの「豊かな表情」や「いきいきとした姿」を主役にした、本学の活気が伝わる映像を制作することができました。現在は公式YouTubeチャンネル・Instagram・TikTokにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。



スポーツで深まる交流の輪



体育祭を開催しました！

6月4日（木）、学友会主催の「体育祭」が盛大に開催され、多くの学生および教職員が参加しました。この体育祭は、学生間の交流を深め、キャンパスライフをより豊かなものにすることを目的に、学友会が中心となって企画・運営を行っている恒例行事です。当日は、以下の7つの競技が行われ、どの会場でも一歩も譲らない熱戦が繰り広げられました。学部・学科の垣根や、サークル、さらには学生と教職員という枠をも超えてチームが結成され、キャンパス全体が大盛り上がりとなりました！

【開催競技】サッカー/ソフトボール/卓球/玉入れ/バドミントン/バスケットボール/バレーボール

地域貢献とスポーツ科学の推進

元サッカー日本代表 名波浩氏による「サッカークリニック&講演会」を開催しました！

8月22日（土）、地域貢献ならびにスポーツ科学の推進を目的として、本学スポーツ情報科学研究センター主催による「サッカークリニック&講演会」を開催しました。講師には、1998年FIFAワールドカップフランス大会に日本代表として出場し、現在は日本代表コーチを務める名波浩氏をお迎えしました。午前中に本学サッカー場「Blue Field」で開催されたサッカークリニックには、地元の中学生・高校生64名が参加しました。午後には一般の方を対象とした講演会を開催し、「データと人間力の融合～現場から考えるスポーツ情報科学～」をテーマにご講演いただきました。



未来につながる学びの実現へ



2027年4月学部・学科の改組計画における設置認可（届出受理）について

本学が文部科学省へ申請中の「学部・学科の改組計画」につきまして、このたび正式に設置認可（届出受理）が完了いたしましたのでご報告申し上げます。今回の認可を受け、今後は新体制のスタートに向けた教育環境の整備を円滑に進め、教育・研究のより一層の充実を図ってまいります。関係者の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それぞれの記事は、大学ホームページでもご覧いただけます。ぜひチェックしてください！

🏆 トップアスリートの経験に学ぶ

トリノオリンピックスキージャンプ 日本代表として活躍した 一戸剛氏による講演会を開催

6月24日（水）、本学にてトリノオリンピックスキージャンプ日本代表であり、現在は解説者としてもご活躍中の一戸剛氏をお招きし、講演会を開催いたしました。本講演は本学同窓会の主催によるもので、「学生の皆様に新たな学びと挑戦への意欲を育んでいただきたい」という温かい思いから実現しました。当日は「夢に向かってのメッセージ」と題し、一戸氏の輝かしい競技人生や挑戦の歴史をもとに、夢の実現に向けたマインドや努力の大切さについて熱く語っていただきました。



🏆 地域と連携した学生の取り組み①



「八戸市こどもまちなかIT部」 本学学生たちが活動サポーター として参加しました！

八戸市が主催する、中高生主体の情報発信プロジェクト「八戸市こどもまちなかIT部」の令和8年度の活動が本格的にスタートしました。この活動は、本学の番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」を部室（主会場）として展開されます。6月27日（土）、今年度の初ミーティングが開催され、公募で選ばれた中高生部員20名と、本学から活動サポーターとして参加する学部生・大学院生5名が集結しました。当日は熊谷雄一八戸市長が応援に駆けつけるなど、活気あふれる船出となりました。

🏆 八戸の医工連携

八戸工業大学×地域医療 「おひさま在宅クリニック八戸」 との共同研究発表会を開催

7月9日（木）、本学で、八戸工業大学とおひさま在宅クリニック八戸による「オンライン診療車（在宅ドクターカー）」に関する共同研究発表会を開催しました。本研究は、通院が困難な地域における医療体制の充実を目的として取り組んでいます。発表会では、おひさま在宅クリニック八戸の井上比奈院長より、地域の医療機関の減少や高齢化に伴う通院困難者の増加を背景に、オンライン診療車の導入の経緯や運用概要についてご説明いただきました。



🏆 地域と連携した学生の取り組み②



感性デザイン学部の学生が 「八戸小唄流し踊り」に参加

7月17日（金）、八戸市の中心街で開催された「第56回八戸小唄流し踊り」に、本学の感性デザイン学部の「地域文化論」を履修する学生17名と川守田礼子教授、戴周杰助教の計19名が、「八戸工業大学感性デザイン学部」として参加しました。八戸小唄流し踊りは、東奥日報社が主催し、「第74回八戸七夕まつり」の開幕を飾る伝統ある催しです。今年も多くの参加団体が華やかな踊りを披露し、八戸市の夏の風物詩として会場を盛り上げました。

H.I.T.
活動報告

地域とともに未来をつくる

本学における教育・研究活動や
学生の活躍などをお届けいたします。



大学1年生が7月頃に待ち焦がれるものは、おそらく夏休みでしょう。今どきの大学生は、夏休み期間中バイトをしっかり入れたり、学年によってはインターンシップなどの就活に勤しんだり、なかなか忙しいようですが、やはり大学の夏休みは長く、宿題もほとんどない、という自由さが特徴であり、それをどう活かすかが重要となってきます。場合によっては、その後の人生に少なからぬ影響を与える出来事に遭遇することもあるでしょう。バイクや自転車で日本一周するもよし、外国へ語学研修に出かけるもよし、何かにチャレンジできる時間がたっぷりと得られるのが大学の夏休みです。

私の大学生としての初めての夏休みは1976年でした。現在の大学の多くは、夏休み前に期末試験を終わらせていますが、当時通っていた大学は夏休み明けに期末試験が設定されていたため、分厚い教科書を段ボール一杯に詰め、当時の国鉄の「チッキ」という荷物輸送サービスを使って実家宛（正確には購入した乗車券の終着駅である直江津駅）に送って、実家で試験勉強、と決め込んでおりました。というのも、大学の授業で受けた理工系の学びに圧倒されたためです。実際のところ、1年生の夏休みをどう過ごしたかの記憶はほとんどなく、ちゃんと勉強したのかさえも定かではありませんが、当時のノートなどには難問と格闘した痕跡が残っているので、それなりに頑張っていたのだと思います。勉強よりも鮮明に記憶していることとしては、相当の「ロン毛（長い髪の毛）」状態で帰省して父親に嫌な顔をされたことや、大江健三郎の小説をむさぼり読んでいたことです。自動車学校に通って免許を取ったのも大学1年の夏休み期間で、エアコンなどなくても済んでいた平和な夏でした。

大学2年の夏、サークルに入っていなかった私は、前の年と同じように夏休み開始と同時に帰省しました。当時流行っていたオーディオセットを購入すべく、実家の仕事（農機具商）の手伝いというバイトに精を出すのが目的の帰省でした。機械工学を専攻していた私ですが、籾乾燥機の組み立ての手伝いやトラックの運転くらいしか役に立てず、専ら朝から夕方まで蒸し暑い作業小屋の中で乾燥機の組み立てや梱包材の分解などを行っていました。休憩時には各農家の自家製の漬物（野沢菜漬けやタクワンなど）を頂きながら熱いお茶をすることが定番でした。今から振り返ってみると、その休憩時間に農家の方と交わす何気ない会話が、その後のコミュニケーション力育成に多少なりとも役に立ったと感じます。

籾乾燥機といえばお米ですが、先日本学で取り組んでいる「しまりSDGs実践プロジェクト」の一環として、八戸市の郊外である南郷島守地区での田植え作業に立ち会ってきました。同プロジェクトの詳細は本学HP等でご確認頂きたいのですが、現在は青森県米「はれわたる」の生育と、それから醸造される日本酒を通じた地域おこしが主たる狙いとなっております。今年は、「中世からの田んぼ」として知られる田んぼをお借りする形で、本学の学生（サッカー部、自然観察会）が地域の方々やお酒の醸造を担当する八戸酒類の社員の皆さんと一緒に、泥田にも近いぬかるんだ田んぼでの田植えと格闘していました。今頃は苗も大きく成長し、お米の花を咲かせるのも遠くないことでしょう。秋に収穫されたお米は醸造、瓶詰め後本学の学生デザインによるラベルが貼られ、市販される予定です。是非お楽しみにして下さい。



島守の「中世からの田んぼ」での田植えの様子



清酒「しまり」



編集後記

広報室が発足して最初の夏を迎えました。この数か月、オープンキャンパスやテレビCM、SNSでの情報発信をはじめ、多くの取材や撮影を通して本学の魅力を発信してきました。また、2027年度の学部改組計画における設置認可（届出受理）を受け、本学にとって新たな一歩を踏み出す節目の夏にもなりました。現場で出会う学生や教職員の皆さんの活躍に触れながら、本学にはまだまだ伝えきれていない魅力がたくさんあることを日々感じています。これからも取材や撮影を通して、学内の素敵な取り組みを皆さまにお届けできればと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします！（大学・広報室）



HP・SNSでも情報発信中！



八戸工業大学
Hachinohe Institute of Technology

工学部 工学科
感性デザイン学部 感性デザイン学科
大学院 工学研究科